

戦後アナキズム運動史年表

(一九四六年～一九四八年)

戸駒恒世

年	1946年	出版活動	社会的な状況
5・5	解放青年同盟結成。	3・10 中国文化1号(原子爆弾特集号)発行・栗原	1・1 天皇人 間宣言
5・12	日本アナキスト連盟結成(東京・日赤講堂で 大会。岩佐作太郎・委員長に選出される。翌 13日、同志懇談会が読売会議室で開かれる)	6・15 週刊・平民新聞1号 ○サメよ強力政権の夢 から ○平民社の思ひ出(石川) 発行・日 本アナキスト連盟(以下平新と略す)	1・4 総司令 部、軍国主 義者の公職 追放・超国 家主義団体 の解散を指 令
6・	第二次読売争議に綿引・布留川(信・桂)ら も争議団に参加。	8・28 平新4号 ○自治権の回復(石川) ○忘れ 得ぬ人1(近藤)	2・9 日本農 民組合結成
7・7	凡人会(名古屋地区研究会)発足。小川正夫 ・伊串英治ら参加。	9・18 平新5号 ○決定的闘争の段階へ	2・19 部落解 放全国委員 会結成
7・21	西日本アナキスト協議会、広島県三原市で開 催。同夕、同所にて講演会。	10・9 平新6号 ○産別の強さは自主的結集力	
7・28	解放青年同盟臨時大会(東京)	11・23 平新7号 ○読売争議の意義	
8・2	13山梨夏期大学に石川・大門・速藤・新居・ 張ら講師として招へいされる。	11・30 平新8号 特集・弁証法批判	5・3 極東国 際軍事裁判 開廷
8・3	詩の座談会「解放青年同盟主催で開かれる。	12・11 平新9号 ○九州平民戦線を行く(岩佐)	
8・10	討論会「青春の在り方について」解放青年同	12・20 解放ニュース大会特集号 発行・解放青年同 盟	5・19 東京で 食糧メー
		12・25 平新10・11合併号 ○日本自治同盟の発足に ついて(逸見・水沼浩・速藤)	

- 8・22 盟・青年共産同盟の共催で開かれる。
山本忠平（田勘助）追悼会、ブラック社の主催で開催される。
- 9・16 大杉栄記念講演会（東京・保険協会講堂）アナ連主催で開催される。
- 9・29 国際自由連合結成大会（広島県三原市）中華民国・朝鮮より参集。
- 10・6 日本自治同盟結成される。
- 10・6 解放青年同盟関西支部結成される。
- 10・7 解青・兵庫支部講座、逸見吉三を講師に迎えて開催される。
- 10・26 佐賀自由人連盟発足。
- 10・30 石川三四郎、長野県下を講演旅行。30日・止田・31日・滋野・4日・御牧原・滋野・6日南大井村。 沢・南沢らが準備
- 11・16 岩佐作太郎・近藤憲二・山鹿泰治・青山大等九州各地を遊説旅行。16日・佐賀市・17日・佐賀県鹿島町 20日・福岡市 23日・鹿児島市。副島・井原・杉藤・武らが準備。
- 11・23 解青兵庫支部講座。講師・小笠原秀実。
- 12・8 解放青年同盟全国大会準備委開催される。
- 12・15 解青兵庫支部講座。講師・市川白弦。
- 12・30 岐阜で研究会開かれる。講師・市川白弦。

- 7・1 デー
ピキニ
原爆実験
- 7・12 読売新聞第2次争議
- 7・24 国鉄争議
- 8・1 総同盟
第一回大会
- 8・19 産別結成大会
- 10・ 産別10
月闘争
- 11・3 日本国憲法公布

- 1・5 自治問題公開研究会、佐賀市で開かれる。同夕アナ連全九州協議会。
- 1・6 上月岩太郎死去。
- 1・7 無政府主義演説会、福岡で開催。
- 1・10 鹿児島地区座談会開かれる。
- 1・19 自然人連盟(福岡)発足。
- 1・24 幸徳秋水追悼講演会(東京・教育会館)アナ連主催で開催される。
- 1・25 地方自治研究講演会(佐賀県浜町)佐賀自由人連盟主催で開かれる。
- 2・8 同志懇談会、大阪支局で開かれる。
- 2・13 研究社労組ストライキに突入。委員長・水沼辰夫。
- 2・15 クロボトキン記念無政府主義講演会(東京・文化学院)連盟の主催で開かれる。
- 2・16 佐賀アナキスト連盟結成される。佐賀自由人連盟は発展的に解消。(外郭団体として生活互助会結成)
- 2・27 福岡市生活獲得同盟結成される。代表・副島辰己
- 3・ 秋水会発足する。坂本清馬・岡林寅松らが参加。
- 3・ 劇団「近代座」ししどまことらが結成する。
- 4・5 久保謙婦国歌迎会開催される。

- 1・1 平新12号 ○農村の建設的任務(小笠原) ○運動の現状勢
- 1・15 平新13号 ○地方自治体でどう闘うか ○農地改革失敗か
- 1・22 平新14号 ○農組の政党離脱
- 2・5 平新15号 ○絶好の建設条件(小笠原) ○提案・新秩序建設三カ年計画(関西グループ) ○見てきた欧州(久保)
- 2・10 解放青年4号 ○共産党宣言是非(小笠原) 発行・解放青年同盟
- 2・12 平新16号 ○2・1ストの悲劇的性格 ○愛国ストの危険性
- 2・13 自由社会新聞1号 ○留日朝鮮同胞のために発行・自由社会新聞社
- 3・5 平新18号 ○日農全国大会を見る ○指令ストより自主活動へ
- 3・12 平新19号 ○吹上農協組合史
- 3・19 平新20号 ○中国の動向
- 3・26 平新21号 ○どんな選挙が行なわれるか ○世界労働者運動と精神(石川)
- 4・2 平新22号 ○これでよいか民主主義教育 ○生活革命と新秩序(山鹿)
- 4・9 平新23号 ○差別の性格と反省(布留川) ○土地革命の気運(鷹野原) ○労働組合

- 1・18 全官公労「2・1ゼ」
- 1・31 総指令部ゼネストの中止命令
- 3・17 世界労連日本視察団来日
- 4・7 労基法公布
- 5・24 片山内閣成立
- 6・8 日教組結成
- 7・25 全国農民組合結成
- 9・15 キヤスリン合風
- 10・5 コミンフォルム結成
- 11・7 国鉄反

- 4 . 米子・長崎に連盟支部できる。
- 5 . 2 無政府主義講演会(鹿児島)開催される。二〇〇名参集。主催・九州地協。
- 5 . 3 4 . 6 無政府主義思想講座(東京・教育会館)解青同の主催で開かれる。
- 5 . 8 クロボトキン研究会始まる。(東京)
- 5 . 10 } 11 アナ連第2回大会開催される。(東京・日赤講堂)
- 5 . 24 講演会(東京大学)植村が講演。主催・東大無政府研・無政府主義学生東京都連絡会議。
- 5 . 25 解放青年同盟解散する。
- 5 . 27 講演会(千葉・香取郡)植村・小川・遠藤ら講演。主催・農業会南部々会。
- 5 . 28 講演会(別府・要法寺)岩佐・副島ら講演。主催・九州地協。
- 5 . 30 公開座談会(土佐申村町役場)岩佐・副島ら参加。
- 5 . 31 研究会(逗子)植村が参加。地協の主催。
- 6 . 1 演説会(土佐・蔵岡村)岩佐・副島ら演説。
- 6 . 13 研究会(横浜)岩佐が参加。地協の主催。
- 6 . 17 菊地清吉死去。
- 6 . 28 無政府主義研究会(熊本・第七高等学校)、武が講演。主催・同校社研。
- 7 . 3 国際自由連合懇談会開かれる。(三原)
- 7 . 5 } 6 九州地方協議会開かれる。(福岡)

- 4 . 30 戦線統一に逆行
平新25号 ○教職から：私は何故追放されたか(大門) ○教育施設への基本提案(小笠原)
- 5 . 7 平新26号 ○新聞売りつつ宣伝(福岡支局)
○組織をいかにすべきか(市川) ○アン・リネルの個人主義とクロ1(松尾) ○われらとエスベラント1(山鹿)
- 5 . 21 平新27号 ○組合運動の組織と精神1(布留川) ○連絡体より能力組織へ(大会報告)
○産別の一步前進二歩後退
- 5 . 28 平新28号 ○再び組織について(市川)
- 6 . 11 平新29号 ○解青はなぜ解散したか(大沢)
○片山内閣ごまかして終子か
- 6 . 18 平新30号 ○組合ボスを追放せよ!
- 6 . 25 平新31号 ○新閣普及闘争記(鶴) ○農組の進路
- 7 . 2 平新32号 ○あらゆる組織に入りこめ(小笠原)
- 7 . 16 平新33号 ○資本家の新戦術
- 7 . 23 平新34号 ○青年部確立のために
- 7 . 30 平新35号 ○労働戦線の統一を急げ
- 8 . 13 平新36・37合併号(平和記念特集) ○農協組合にアナキズムの理想を ○無政府主義講座1

- 8・9 東海地方連盟結成準備をはじめ。
- 8・15 八・一五記念講演会（東京・文化学院）アナ連が主催。
- 8・15 八・一五記念演説会（福岡）青年黒旗同盟、福岡・佐賀両連盟支部共催。
- 9・10 若杉サト死去。（若杉浪雄の母）
- 10・12 アナ連東京地協結成される。
- 10・18、19 アナ連全国委員会開催される。
- 10 福岡無政府主義研究会結成される。
- 10・30 浜松孝太郎死去。
- 10・24、11・13 岩佐作太郎、九州・中国地方を宣伝旅行する。25日・福岡市26日・福岡市・27日・福岡市 28日・佐賀市 29日・佐賀県鹿島町 30日・佐賀県牛津町 31日・福岡市 2日・別府市 3日・中津市 4日・福岡市 5日・佐賀県鹿島町 6日・佐賀県浜町 7日・同浜町 8日・姫路、の各地で講演、座談等をする。
- 11・30 愛知大社研主催講演会、小川・伊串らが講演。
- 12・6、7 鹿児島にて学生社研講演会、小笠原秀実が講演。
- 12・14 アナ連中国地協、西日本連絡協議会結成される。同昼より連盟主催演説会開かれる（岡山市）
- 12・21、22 佐賀県鹿島町、同浜町で演説会。岩佐ら

- 8・22 平新38号 ○平和運動に於ける無政府主義者の任務（植村） ○片山内閣の失政と官僚
- 8・29 平新39号 ○印刷出版労組の争議 ○農業協同組合をどうつくるか
- 9・6 平新40号 ○戦術と時代（久保）
- 9・12 平新41号 ○労働戦線 ○苦難の農業協同組合 ○耐之強要の片山内閣
- 9・19 平新42号 ○塩尻村の真相 ○葬られた社会主義
- 9・26 平新43号 ○自力でたった山の労働者（鷹野原）
- 10・10 平新44号 ○吹上町堤防事件の顛末 ○労働運動の新方向
- 10・17 平新45号 ○出版労組の争議頻発
- 10・31 平新46号 ○協同組合とわれわれ ○今後の労組戦線統一
- 11・1 自由新聞1号 ○アナキズム入門（向井）
- 11・7 平新47号 ○労働争議は闘争だ
- 11・14 平新48号 ○全労連の強化は戦線統一への逆行 ○反共の態度について
- 11・21 平新49号 ○九州川南造船の争議 ○九州中国宣伝行 ○無政府主義修業（山鹿）
- 11・28 平新50号 ○日農各地にゆらぐ
- 12・5 平新51号 ○反共労組の動き
- 12・12 平新52号 ○連盟の性格拡大について（副島）

12・30 岐阜で青年研究会。市川白弦が参加。
が演説する。

- 1・3~5 鹿兒島で無政府主義講習会開かれる。岩佐が参加する。
- 1・5 西日本協議会開かれる。(佐賀市)
- 1・7 佐賀市で演説会開かれる。
- 1・8~27 石川三四郎、宋世何、甲信地方を講演旅行
12日・小県 14日・平原 17日・塩尻
18日・小諸 19日・三岡 21日・滋野
22日・御牧村 25日・山梨県松里 26日・同
塩山などの各地で講演・座談する。
- 1・10~23 岩佐作太郎、東北地方を旅行
各地の連絡に当たる。
- 1・18 岐阜で研究会。
- 2・11 愛知で研究会。
- 2・15 平民新聞宇都宮支局開設される。
- 2・22 平民新聞小野田支局長・光田嗣朗死去。
- 4・5 アナ連西部協議会開かれる。(福岡)
- 4・16 三多摩自由人連盟結成される。
- 4・18~19 アナ連西日本協議会、大阪で開催される。

12・19 平新53号 ○官公労組と政府 ○全国の同志
諸君に訴う(副島) ○またも日農分裂か
12・16 平新54号 ○農協その理想と実態 ○共産党
の言論圧迫

- 1・2 平新55号 ○連絡強化を期待する(副島)
○革命的条件の成熟(光田)
- 1・16 平新56号 ○農民相互扶助連盟設立趣旨
- 1・23 平新57号 ○運動の主流と多様性(植村)
○農協組に野望の魔手
- 1・30 平新58号 ○「現段階における無政府主義理論」批判(所・山浦)
- 2・1 自由新聞3号
- 2・6 平新59号
- 2・10 無政府主義会議1号 ○民主主義革命途上に於ける我等の任務(植村) 発行日本アナキスト連盟
- 2・13 平新60号 ○甲信行脚記(石川) ○労働組
合と政党
- 2・20 平新61号 ○産別民同結成さる
- 2・27 平新62号 ○農業会を監視せよ
- 3・5 平新63号 ○極東アナキスト会議のために
○信農通信

1・30 ガンジ
暗殺さる
1・26 帝銀事件
2・13 産別民
同結成
6・28 福井大地震
6・19 東宝争
議に武装警
察出動
7・31 政令2
10号公布

4・26	青年部主催、ブルードン研究会始まる。(東京)	3・10	無政府主義会議2号 ○無政府主義私見(副島)
5・15	アナ連第3回大会、東京芝・中央労働会館で開催される。	3・12	平新64号 ○組合民主化について(布留川) ○西幡に民主労組
5・29	東北地協結成大会、仙台で開催される。	3・19	平新65号 ○都市に於る生活共同体
6・9	三原で中国地協開かれる。	3・26	平新66号 ○労働組合を破壊するもの ○社会組織の変質へ(山形)
6・10	長崎・五島に五島自由人連盟結成される。同日反戦演説会を主催。	4・9	平新67号 ○税金闘争を闘う(姫路支局) ○弾圧された労働攻勢
6・13	東京地方協議会・労働者協議会開催される。	4・16	平新68号 ○産別民同の在り方について(布留川) ○農民は政党の下僕に非ず
6・12	京都で学生懇談会開かれる。	4・20	無政府主義会議3号 ○革命的協組運動(杉本) ○平和運動か革命運動か(大沢) ○農村と都市との相異(石川)
6・27	大阪で研究会開かれる。	4・23	平新69号 ○平和を守れ(植村) ○生産管理を守れ
6・30	青年部研究会開講。講師に塩長五郎。	4・30	平新70号 ○生管弾圧に弾固闘え ○朝鮮人教育問題
7・8	大阪で座談会。石川・伊福部も参加。	5・7	平新71号 ○新社会に適應する農民団体を結成せん(農民相互扶助連盟)
7・10	福山市でアナキズム講座開催される。石川が講演。	5・14	平新72号 ○税金闘争の成果(姫路支局) ○ふたたび戦列へ(小松)
7・11	狛江生協第3回大会開かれる。	5・15	無政府主義会議4号 ○労働運動私見(副島) ○組織問題について
7・15	広島市で講演会。石川・伊福部ら講演する。主催・広島平民新聞社。	5・24	平新73号 共産党より同志選る(副島)
7・24	東京・立川市で講演会。岩佐が講演。主催・三多摩自由人連盟。		
7・28	三島製紙争議で連盟員・福田武寿、検挙される。		
8・1	東京地協開催される。		
8・14	平和記念小集会開催される。		
8・15	八王子で講演会開かれ、岩佐・植村が講演。		

- 主催・三多摩自由人連盟
- 8・22 平民新聞阪神愛読者の集い開かれる。
- 8・24 八王子で講演会。岩佐・近藤らが講演。主催・東京地協。
- 8・ 佐賀で無政府農園、井原未九郎らによって開園。よって、佐賀アナ連解消し、福佐連盟に改組。
- 9・1 岡林寅松死去。
- 9・25 青梅で講演会。岩佐・植村・綿引・若杉・杉本らが講演。主催・三多摩自由人
- 10・3 東京地協開催される。
- 10・10 福佐連盟、北九州地協開催される。
- 10・24 東京地協家族の集い開催される。
- 10・ 久留米文局開設される。
- 10・ 松尾ら「自由クラブ」を発足。
- 10 兵庫地協結成される。
- 11・6、7 全国委員会開催される。東京・中央労働会館。
- 11・21 吉祥寺で講演会開催される。岩佐・植村・綿引ら講演。主催・三多摩自由人。
- 11・30 早稲田大学で無政府主義講演会開催される。石川・植村が講演。

- 起ち上る農村・矢本の同志不正追求の先に ○大会報告 ○浪1(石川)
- 5・31 平新74号 ○希望の筑豊炭田(副島) ○農村・盛り上る自主運動
- 6・1 自由新聞4号 ○税務署と闘え
- 6・1 青年労働者1号 発行・連盟東京労運協青年部
- 6・1 民主解放2号
- 6・7 平新75号 ○自由の道を阻む者(杉藤)
- 6・14 平新76号 ○俺達は産別を脱退した
- 6・21 平新77号 ○産別民同大会を聴く ○朝鮮は新たな苦痛に
- 6・28 平新78号 ○封建的請負業下の人夫圧迫蹴って労組結成 ○消費者組織が必要だ
- 7・5 平新79号 ○労働運動の指標 ○大学の本质とストライキ ○佐賀地方新段階へ ○東北金属反共めぐり動揺
- 7・10 民主解放3号
- 7・12 平新80号 ○民同ボスどもの新党画策を警戒せよ。
- 7・19 平新81号 ○天皇と封建勢力 ○買出し検挙見聞記(小松)
- 7・20 無政府主義会議5号 ○原理原則がわかってるか(水沼)
- 7・26 平新82号 ○アカハタに抗議する(杉藤)

- 12・12 東京地協例会(約40名)ピクター争議の報告。
- 12・13 佐賀地協・小山一、逮捕される。
- 12・14 研究会(横浜)吉田・岩佐 他16名。
- 12・12 東京地協例会(約40名)ピクター争議の報告
- 12・13 佐賀地協・小山一彌、逮捕される。
- 12・14 研究会(横浜)吉田・岩佐16名。

- 8・9 政党と労働闘争
- 8・9 平新83号 ○分裂の炭坑戦線から(居初)○
全労結成 ○賃上争議流血へ
- 8・16 平新84号 ○サンジカリズムの傾向
- 8・23 平新85号 ○日農は何処へ行く?
- 8・30 平新86号 ○東宝争議大詰めへ
- 9・1 平新87号 ○牛肉不買ストは成功したか
- 9・13 平新88号
- 9・20 平新89号 ○自由連合組織1
- 9・27 平新90号 ○産別にいるわれわれの態度(水沼)
○職場の同志諸君に訴う(大沢)○
わが組合の現況(吉田)
- 10・4 平新91号 ○権力は常に不当だ(岩佐)○
まだ足りぬ農協
- 10・11 平新92号 ○いがみあう農協連 ○天皇制こそ反動の温床
- 10・18 平新93号 ○無政府農園報告記(井原)○
政党不信より自主自治へ
- 10・18 自由連合1号 ○各所属労組から動きと闘い
発行・アナ連労運協
- 10・25 平新94号 ○相次ぐ疑獄事件 ○東宝争議解決
- 11・1 リベルテ(中国文化改題)1号 政治と文学のノート
- 11・1 民主解放7号 ○哲学への疑義

一 武蔵六十五日十二日、朝日新聞
 日清戦争の歴史

11	1	平新95号 ○無政府農園を訪う(副島) ○誰がための農組か。
11	8	平新96号 自治体民主化の闘い ○その後の人夫請負業
11	22	平新97号 ○天皇は無罪か? ○朝日新聞争議の教えるもの ○第二組合は何をしたか?
11	29	平新98号 ○市民税の拒否(姫路支局) ○闘うための労組強化の道
12	6	平新99号 ○農民支配の下心
12	13	平新100号 ○百号に寄す(新居・石川・岩佐・水沼)

この年表は、きわめて不完全な形でここに収録されている。妥当性を欠く点も恐らくあるだろうし、書き直さなければならぬ点もあるかもしれない。

第一の欠点は、年表を作成してゆく過程で、文献をたどってゆく以外の方法をとり得なかったことにある。その文献自体、我々が入手し得る程度のきわめて狭い範囲のものであり、そこには、偶然に・あるいは意図的に触れられていない幾つかの点を見出すことが出来るかもしれないという恐れがある。

第二の最大の欠点は、我々がある程度の事実認識に基づいた戦后アナキズム運動の実像を(あるいは虚像さえも)持ち得ていないことである。それゆえに、記述の不適格、誤認、あるいは意図的な書き違い等々を見抜けずに記しているかもしれない。断片的な脈結のない記述が多く見られるのは、年表を作成する作業が、

「戦后運動史」の流れ総体に則して進められなかったことにその主要な原因を発している。

あくまでも強調しておきたいのは、この年表をここに掲載する理由が完成したから発表する、というのではないことだ。

ひとつの理由は、誤まった記述、事実の誤認を訂正してゆくためと卒直に云うならば、年表作成のための文献の指摘、提供(あるいは写しをとらせて頂く)をお願いしたいことと、直接に戦後の運動に関わってこられた方々に出るだけお話しを伺いたいということ。

もう一点は、この戦后アナキズム運動年表(運動史)をたどってゆく作業にもっと多くの方に参加していただきたいということ

である。

事実認訟の欠落している（戦後アナキズムへの批判は、現実の力につながってゆかないばかりか、敗戦後数年間の短い期間での誤まりを再びくりかえしてしまふ結果をも産むかもしれない）である。加えて、組織論・運動論・を形成してゆくための重要なヒントが戦後の運動の中に在るかもしれない、などの期待がこの戦後の運動をたどってゆく作業をはじめた理由になっている。

この年表は今后何回かに分けて分載される予定である。その為に現在も記入の作業が進められている。別に、月一回、年表その他の文献を資料にして会合がもたれている。参加・あるいは作業への協力は現在のところ、アナキズム研究センター、ペラポーナグループに関係している数名。正確には、中村、工藤、奥沢、戸駒らがこの作業にあたっている。細かい作業などでは、その他の人々の協力をも得ている。なお、今回の掲載分は戸駒恒世にその責任がある。

日本アナキスト連盟・綱領

（一九四六年五月十二日、結成大会で採択）

一、支配と搾取なき自由連合社会の建設

- 一、資本主義機構の廃絶
- 一、人種、民族、国籍による差別なき世界平和機構の実現
- 一、文化と科学の最高度の発達、その自由なる享有

日本アナキスト連盟・行動綱領

（同右・但し全二十一項）

- 一、天皇制資本主義の打倒、全人民の人権確立と生活権の護
- 三、地域的、職域的、人民自治委員会の確立と全国的自由連合
- 四、労働組合、農民組合その他の自主的団体の自由連合組織の確立
- 五、革命的共同戦線体としての人民戦線の確立
- 六、公共官官事業の人民管理
- 七、資本と生産機関の勤労者管理
- 九、七時間労働制の確立と労働条件の徹底的改善
- 十、強権による食糧供出の反対。農民の自主的供出と農村必需物資の供給
- 十一、生産資材と生活必需物資の人民による管理分配

この綱領・行動綱領は、大沢正道氏の「戦後日本のアナキズム運動」の文中に引用されていたもので、12の項が欠けている。大沢氏はその文中で、行動綱領のうち特に第五項、「革命的共同戦線体としての人民戦線の確立」を八注目すべき点として指摘している。